

VI 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	無
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきしゃだんほうじん きょういくえんげきけんきゅうきょうかい 公益社団法人 教育演劇研究協会		
代表者職・氏名	代表理事・ 森下文雄		
制作団体所在地	〒 435-0015 静岡県浜松市東区子安町323-3		
電話番号	053-461-5395	FAX番号	053-461-6378
ふりがな 公演団体名	げきだんたんぽぽ 劇団たんぽぽ		
代表者職・氏名	代表・上保節子		
公演団体所在地	〒 435-0015 静岡県浜松市東区子安町323-3		
制作団体 設立年月	1955年 2月		
制作団体組織	役職員 代表理事 森下文雄 常務理事 上保正道 理事 鈴木秀志 佐野牧夫 他9名 監事 鈴木登	団体構成員及び加入条件等 (1)団体構成員 個人正会員 43人(うち劇団員31人) 個人賛助会員 63人(うち法人会員4社) (2)加入の条件 法人の目的に賛同し、理事会の承認を得た者	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	上保節子・松下哲子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	森田美代子(経理) 鈴木登(監査)

制作団体沿革	1945年 長野県篠ノ井町(現長野市)で小百合葉子主宰の児童劇団たんぽぽを発足。 1950年 長野県松本市へ拠点を移し、公演は、東京、静岡、岐阜、神奈川へと広がる。 1953年 活動の拠点を静岡県浜松市へと移す。 1955年 文部省(当時)から児童劇団として初めて公益法人格が許可され社団法人教育演劇研究協会を設立。 1963年 復帰前の沖縄公演に出発。沖縄全域120日209公演実施。 1966年 北海道に事務所を新設。 1972年 長野県に事務所を新設。 1986年 沖縄県に事務所を新設。 2012年 内閣府より公益社団法人の認定を受け、公益社団法人教育演劇研究協会に移行			
学校等における公演実績	劇団創立以来、公演回数は、延べ44,000回以上を実施。その公演のうちほとんど(約8割)が、学校体育館での公演である。 その公演活動範囲は、北海道から沖縄に及び、学校規模も児童数1,000人以上の学校から10人に満たない小規模学校まで、様々行っている。 年間公演回数は約350公演。 令和元年度は、335日404公演を実施。昨年度のコロナ禍においても152日251公演を実施。			
特別支援学校における公演実績	平成21年 静岡県文化振興プラン事業「長い長い郵便屋さんの話」 藤枝特別支援学校、静岡南部特別支援学校等8会場11公演(21校) 延べ2,553人 平成22年 諫早特別支援学校「100万回生きたねこ」 島原特別支援学校「100万回生きたねこ」 沼津特別支援学校「100万回生きたねこ」 袋井特別支援学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成23年 岡崎養護学校「ふしぎの森のヤーヤー」 平成24年 袋井市特別支援学校「ズッコケ妖怪大図鑑」 平成30年 北海道釧路鶴野支援学校「グリックの冒険」 令和2年 岡崎養護学校「おはなしレストラン」 令和3年 協和特別支援学校「おはなしレストラン」 旭川養護学校「おはなしレストラン」 白糠養護学校「おはなしレストラン」			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
			PW:	
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
			PW:	

【公演団体名】 劇団たんぽぽ

対象	○	小学生(低学年)	-	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	メニューはお話「おはなしレストラン」			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	本公演演目『おはなしレストラン』 原作/ブレーメンの音楽隊・おおきなかぶ 脚本/宮田恵紀子 演出/村岡由美子 音楽/村岡由美子 衣装・美術/柿平衣名美 照明/真野亮文 制作/上保節子 公演時間(60 分)			
著作権	○	制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	「ブレーメンの音楽隊」と「おおきなかぶ」を組み合わせ、『おはなしレストラン』として上演します。 【あらすじ】 ある時、ふと、あらわれる、不思議なレストラン。このレストランでお出しするのは、食べ物のお料理ではありません。お客様にピッタリのお話をご用意する、その名も「おはなしレストラン」 ある日、使い込まれたランドセルを背負った男の子がやってきました。「このランドセルがピカピカだったころ、ボクは何でもできるような気がしていた。でも・・・。」ふうーっと、ため息をついたその時に、レストランはあらわれる。 「いらっしゃいませ。おはなしレストランへようこそ。君にピッタリの、今日のメニューは、これ！」さて、扉をあけたその先で、男の子を待っていたお話は・・・。男の子が、出されたお話の中で活躍します。 誰もが知っている「ブレーメンの音楽隊」と「おおきなかぶ」のお話を、客席とコミュニケーションを取りながら演じ、演劇を身近に感じてもらえる作りとなっています。			
演目選択理由	この演目では、特に、演劇体験ということにこだわっています。 教科書や絵本でなじみのあるこのお話が、劇になって立体的に表現されると、こんな舞台になるんだということを強く感じられる演目です。そのお話の中に参加して、役者と、子どもたちが一体となって、劇を作り上げるという体験をするのに最適な作品であると思い、選択いたしました。 1年生から6年生まで、ほとんどの子どもたちが、耳にしたことのあるお話に、学年を超えて、異年齢で参加することで、お互いを意識した相乗効果が生まれると考えています。 また、公演当日にワークショップを行うことで、子どもたちの期待と興味を惹きつけたまま、鑑賞、参加体験できることが大きな魅力です。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	①「おおきなかぶ」のかぶを抜くシーンで参加してもらいます。異年齢同士がつながれるよう工夫し、単なる遊びにならないよう、出演者も一緒になって、お芝居の中に参加してもらいます。舞台上へ参加しない子どもたちは、客席から掛け声で応援する形で参加します。 ②「ブレーメンの音楽隊」劇中歌と一緒に歌って、劇に参加してもらいます。歌の途中にある掛け声で、ブレーメンへ向かう登場人物たちを応援したりもします。 ③学校側の希望があれば、舞台設営や片付の見学も可能です。終演後に質問コーナーを設けたり、バックステージツアーを行うなどして、出演者たちとの交流を図ります。			
出演者	岩本道夫/宮田恵紀子/柿平衣名美/金原綾香/榊原暁哉 (予定)			
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 5 名 スタッフ: 2 名 合 計: 7 名		機材等 運搬方法	積載量: 0.1 t 車 長: 6 m 台 数: 1 台

【公演団体名 劇団たんぽぽ】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		2	時間程度
	到着	仕込み・ワーク	本公演	内休憩	撤去	退出
	7時30分	7時30分～9時30分 9時30分～10時30分	11時～12時	0分	13時～14時 30分	14時30分
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	～300名				
	本公演	～300名				
ワークショップ 実施形態及び内容	ワークショップは、公演日と同日の2時限を想定しています。全校生徒での参加も可能ですが、参加人数、時間、ワークショップ内容などは、学校側の実態に合わせて、話し合いで決めます。基本的には、共演・参加のためのワークショップを行います。 ①発声や体をつかった表現遊び。「おおきなかぶ」参加へつなげる。 ②劇中歌の練習。事前に送っていただいた音楽を、参加場面に合わせて練習する。 (詳細 別添あり)					
ワークショップ 実施形態の意図	公演日当日のワークショップを設定することで、実際に参加する場面のイメージがつきやすく、公演に対する期待を高める意図があります。さらに、異年齢で表現遊びをすることで、高学年の、表現することへの恥ずかしさや抵抗を低減させ、コミュニケーションを図りやすくするねらいがあります。また、出演者も一緒に行うため、より興味を持って取り組むことができると考えます。 (詳細 別添あり)					
特別支援学校での 実施における工夫点	特別支援学校では、上演実績があり、同事業においても参加型で実施した実績があります。これまでも、実施校の先生方と話し合い、学校側の実情とニーズに合わせ、臨機応変に対応してまいりました。この作品も、特別な変更なく実施できると考えています。					
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。					

リンク先	No.3	【公演団体名	劇団たんぽぽ	】
項目内容 ワークショップ 実施形態及び内容 ワークショップ 実施形態の意図	●ワークショップ実施形態及び内容 ワークショップは、公演日と同日の2時限分を想定しております。 全校生徒を対象に実施することも可能ですが、参加人数は、学校側との話し合いで決めたいと思っています。 【事前準備】 あらかじめ、作品中の音楽CDと楽譜を学校に郵送しておきます。 音楽の時間や給食の時間などを利用して、音楽を流し、歌を周知していただきます。 掛け声を入れる部分を明記しておき、劇中で児童たちが自由に考えた応援の掛け声をかけてもらうことを周知しておきます。 【ワークショップ当日】 ① 1時限目は、発声と体を使った表現遊びを行います。 ・発声指導は、相手に届く声、伝える言葉 ということに重点を置き、指導します。 ・体をつかった表現遊びは、想像力を使って、自由に表現する楽しさを体験してもらいます。 本番まで、「大きなかぶ」の参加のことは伏せておきます。 そのため、そこに参加することを想定し、抵抗なく、表現できるような雰囲気づくりをします。 体で動物を表現してもらったり、お題を出して、何人かで一つのものを表現してもらったりして、どんな表現も間違っていないということを感じてほしいと思います。    ② 2時限目は、劇中歌のワークショップです。 ・「プレーメンの音楽隊」の中で使われる、プレーメンへ行くまでの道行きの歌を練習します。歌の途中に、登場人物たち掛け声をかける場面があります。子どもたちが自由に考えたフレーズで、登場人物たちに掛け声をかけてもらう練習をし、本番に参加してもらいます。また、歌に合わせて、リズムをとりながら、劇を盛り上げる役割も担います。何回か出てくるこの歌は、仲間が増えていくことで、徐々に盛り上がっていきます。そこを表現できるよう指導します。 ●ワークショップ実施形態の意図 公演日当日のワークショップを設定することで、実際に参加する場面のイメージがつきやすく、公演に対する期待を高める意図があります。希望があれば、舞台設営の様子から見学してもらうこともできます。 事前に作品の音楽CDを送っておいたり、参加する場面があることを伝えることによって、公演に対する意識を高めていきます。 ①発声指導では、恥ずかしがらず自然に声が出せるように、遊びや対抗戦などを使って、自然と大きな声が出せるように指導します。 また、体を使った表現遊びでは、個々やグループで、いろいろな動物になったり、物になったりして、道具を使わずに表現する方法を体験します。最後に、全体で、ボールなしボール投げや、綱なし綱引き大会などを行い、全体の一体感とコミュニケーションを図りながら、「おおきなかぶ」に参加した際に、イメージがつながりやすくなるようなワークショップを行います。 ②劇中歌の練習をします。 メロディーは事前にCDをお送りし、曲の長さも短いため、スムーズに進行できます。 自分たちが考えた掛け声フレーズに合わせ、登場人物たちが先に進んでいくことで、より、公演に参加している意識をもってもらえねらいがあります。高学年になると、表現することに抵抗や恥ずかしさを強く感じる子が出てくるため、自然と作品の中に自分たちも関わっていると意識が持てるよう工夫します。そして、その歌と一緒に歌って、劇を盛り上げ、作品の中で、役を担っているということを感じてもらいます。			

(キャスト・スタッフ表)

キャスト

松組	職名	氏名	生年月日	年齢	採用年月日	在職年数	備考
1	俳優	岩本 道夫	S23.01.08	73	S54.04.03	43	
2	俳優	宮田 恵紀子	S52.10.17	43	H8.03.15	26	
3	俳優	柿平 衣名美	S62.06.30	34	H26.02.25	8	
4	俳優	金原 綾香	H10.5.2	23	H29.03.24	5	
5	俳優	梶原 暁哉	H11.10.10	21	H30.03.12	4	

スタッフ

	職名	氏名	生年月日	年齢	採用年月日	在職年数	備考
1	舞台監督・演出	村岡 由美子	S39.04.13	57	S58.03.25	39	
2	照明・音響	真野 亮文	S33.01.07	63	S52.04.18	42	
	スタッフ・キャスト合計						

ワーケーション

	職名	氏名	生年月日	年齢	採用年月日	在職年数	備考
1	主講師	村岡 由美子	S39.04.13	57	S58.03.25	39	
2	助手	岩本 道夫	S23.01.08	73	S54.04.03	43	
3	助手	宮田 恵紀子	S52.10.17	43	H8.03.15	26	
4	助手	金原 綾香	H10.05.02	23	H29.03.24	5	
5	助手	柿平 衣名美	S62.06.30	34	H26.02.25	8	

※基準在職年数は、当該年度の算出基礎（上限50年）となるもので、3月以前の入団は1年とみなす

れいわ さんねんど
令和3年度

ぶんかげいじゅつ

こどもいくせいそうごうじぎょう

じゅんかいこうえんじぎょう

文化芸術による子供育成総合事業 ―巡回公演事業―

<児童劇公演>

公益社団法人 教育演劇研究協会

 劇団 たんぽぽ



絵／柿平衣名美

「文化芸術による子供育成総合事業 ―巡回公演事業―」

わくに いちりゅう ぶんかげいじゅつだんたい しょうがっこう ちゅうがっこうなど こうえん こども すぐ ぶたいげいじゅつ かんしょう きかい え
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることに
こども はっそうりよく のうりよく いくせい しょうらい げいじゅつか いくせい こくみん げいじゅつかんしょうのうりよく こうじょう
より、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを
もくてき
目的としています。

じぜん こども じつえんしどうまた かんしょうしどう おこな じつえん こども さんか
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演ではできるだけ子供たちにも参加してもら
います。

おはなし レストラン

原作／ブレーメンの音楽隊・大きなかぶ
脚色／宮田恵紀子 演出／村岡由美子
音楽／村岡由美子 美術／柿平衣名美
衣裳／柿平衣名美 照明／真野亮文
制作／上保節子

だれもが知っているお話^{し はなし きやくせき}を客席と
コミュニケーション^{えん}をとりながら演じ、
演劇^{えんげき みちか かん}を身近に感じてもらえる作りと
なっています。



おはなし

ある時、ふと、あらわれる、不思議なレストラン。
このレストランでお出しするのは、食べ物のお料理ではありません。
お客様にピッタリのお話をご用意する、その名も「おはなしレストラン」。
ある日、使いこまれたランドセルを背負った男の子がやってきました。
「このランドセルがピカピカだったころ、ボクはなんでもできるような気がしていた。
でも・・・。」
ふうーっと、ため息をついたその時に、レストランは現れる。
「いらっしゃいませ。おはなしレストランへようこそ。君にピッタリ、今日の
メニューは、これ！」
さて、扉を開けたその先で、男の子を待っていたお話は・・・。

劇団 たんぼぼは・・・

1946年、戦争が終わり、大きな町が焼け野原になり、食べ物もなく、やせた子どもたちが日本中におおぜいいまし
た。「子どもたちの元気な顔が見たい」と、長野県篠ノ井で小百合葉子を中心に子どものための劇を見せる児童
劇団「劇団たんぼぼ」をつくりました。はじめのうちはリュックサックに衣裳や道具をつめて、子どもたちのところに行
って劇を見せました。1953年、静岡県浜松市にひっこしました。1955年、公演活動を認められ、文部省(当時)と
いう国の機関から公益法人格が許可され、社団法人教育演劇研究協会をつくりました。(現在は公益社団法人)
北海道から沖縄まで、主に小・中学校で劇をしています。

知ってますか?～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を
通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	K145	分野	演劇	種目	児童劇	ブロック	D/E/F	区分	C区分
公演団体名	[C区分]劇団たんぽぽ				制作団体名	公益社団法人 教育演劇研究協会			

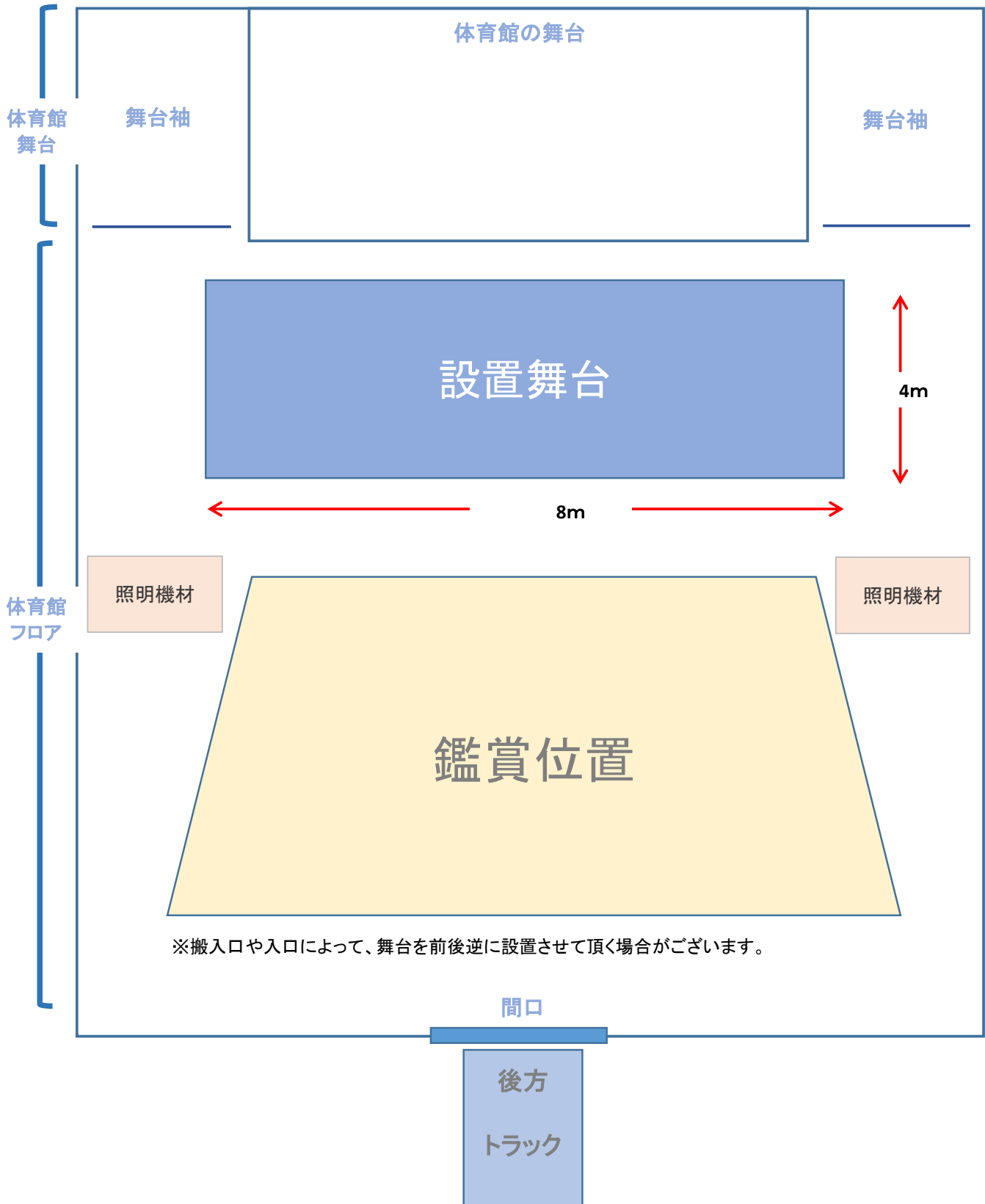
① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談
控室について	必要数 *	1室	条件		体育館ステージや器具庫で対応出来ない場合は、カーテンのあるお部屋を1室お願いしたいです。			可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			バン	2台			不可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細							
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン(ハイエース)				不可
	搬入車両の横づけの要否 *			要(出来る限り、横づけを希望)				可
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			100m以内				可
	搬入経路の最低条件			屋根のある経路が望ましい				可
	理由			舞台道具搬入の際、雨や風の影響をさけるため				
	設置階の制限 *			問わない				可
	搬入間口について 単位:メートル	幅	概ね1.5m		高さ	概ね1.8m		可
WSIについて	参加可能人数	300名くらいまで。						可
	学年の指定の有無 *	なし	指定学年 *	なし			可	
	所要時間の目安 単位:分	1時間程度						可
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数		300名くらいまで。					可
	舞台設置場所 *		フロア					可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	8m	奥行	4m	高さ	5m	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			不要			—
		舞台袖スペースの条件 *						—
		緞帳 *	不要		バトン *	不要		—
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				—
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *		不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。			—
		ピアノの事前調律 *		不要			—	
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *		ステージ前方にあるものが、格納式ならば可				可
	公演に必要な電源容量		50A	※主幹電源の必要容量				可
	その他特記事項							応相談

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	概ね1.5m	高さ	概ね1.8m
搬入車両の横づけの可否		要(出来る限り、横づけを希望)		
横づけができない場合の搬入可能距離		100m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



※搬入口や入口によって、舞台を前後逆に設置させて頂く場合がございます。